

## [RYU PROJECT] 事業

## 子どもたちが会いたいときに会えるヒーローを作って「勇気」や「希望」を届けるショーを無償で開催

どんな時代、どんな状況であれ、子どもたちにとって「ヒーロー」は、自分を支えてくれるかけがえのない存在である。東日本大震災で被災した人々が身を寄せ合った避難所で、子どもたちが「ヒーローに会いたい」という声をあげたとき、それに応えるために立ち上がった人たちがいる。オリジナルヒーロー「破牙神ライザー龍」は、被災地の子どもたちの心をがっちりつかんだ。

## クオリティにこだわって製作されたテレビと遜色ないオリジナルヒーロー

東日本大震災から約1か月、生きるか死ぬかの大混乱からほっと一息ついた頃、子どもたちの様子にもやっと大人たちの目が向けられ始めた。宮城県内のある避難所で、子どもの日のイベントに何がしたいかを子どもたちにたずねると、「テレビヒーローに会いたい!」という声があった。その声を聞いた1人の親が、イベント関係の仕事をしていた知人に電話をかけたことが、「RYU PROJECT」の発端になった。

テレビヒーローを呼ぶために関係方面と交渉したが、

さまざまな理由から無償での公開は実現しなかった。仮にみんなで募金を集め、1、2回呼ぶことができたとしても、ほかにもヒーローに会いたがっている子どもたちがいるかもしれない、そうした子どもたちの希望を叶えることはできない。では、どうするか。「自分たちでヒーローを作れば、いつでも、求められるところに出かけていくことができる」。こうして東北地方でキャラクターショーなどに携わった経験者を中心に11名が集まり、オリジナルヒーローを製作し、子どもたちがいる避難所や仮設住宅、幼稚園や保育所などを回り、勇気や元気、笑顔やあきらめない心を届ける「RYU PROJECT」が始動した。同時に事業を進めるための主体として、NPO法人「HERO」を立ち上げた。

最初にスタッフの間で議論となったのは、どのようなヒーローにするかというキャラクター設定。ちょうど、「ご当地ヒーロー」が騒がれた頃で、ご当地ネタを加味したようなヒーロー像も提案されたが、このプロジェクトの実現を最も熱心に訴えたスタッフが、「子どもたちが会いたいのはテレビで見るような本物のヒーローのはず」と発言。そうして決定されたのが、「破牙神ライザー龍」という



テレビヒーローと遜色ないクオリティを誇るキャラクターが特徴



昨年のスーパーライブの告知ポスター



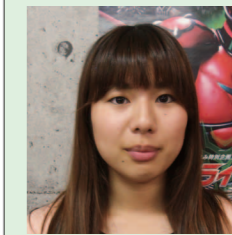
破牙神ライザー龍の訪問に子どもたちも大喜び

テレビヒーローと遜色ないオリジナルヒーローだった。また、ストーリーのモチーフとして「震災」を入れるかどうか悩んだ末、児童心理司や心療内科医に相談したところ、「それに目をつぶって生きることはできないのだから、入れなさい」との助言をもらい、ヒーロー誕生の背景に震災を加味させたという。

## 無償で幼稚園や保育所を回りつつ一大エポックとなるライブを開催

HEROでは年間20数回のフルパッケージショーを企業や団体が実施するイベントのアトラクションとして購入してもらい開催するほか、意匠権や肖像権のキャラクタービジネスを行うなどして資金を獲得し、それを元手に要請を受けた幼稚園、保育所、児童館、仮設住宅などを回り、無償で握手・撮影会、ゲーム大会、ミニショーなどを行っている。これまで、2011年52回、2012年290回、2013年233回、2014年216回と回を重ね、なかには15回も訪問した幼稚園もあるという。宮城県内をほとんどくまなく回ったほか、最近では福島県や岩手県の被災地に

## 担当者より



継続的な支援とスーパーライブ開催に助成を活用できました

NPO法人 HERO  
佐藤真実さん

プロジェクトの運営全般に助成を活用させていただきまし。また、助成のおかげで昨年はスーパーライブを開催することができました。ありがとうございます。私たち自身が龍の反響の大きさに驚くほどで、ヒーローの力、キャラクターの力といったものを再認識しております。今後も子どもたちに夢や希望を与えられるようがんばりますので、ご支援をお願いします。

も招かれることが増えている。

2014年7月12日、13日の両日(1日2ステージ)、HEROでは「RYU PROJECT」の一大エポックともいえる「破牙神ライザー龍 スーパーライブ2014」を石巻市で開催した。全席無料、合計1608名の定員に対し、1942名の申し込みがあったという。「このスーパーライブは、『仙台で行われている有料のテレビヒーローのショーに子どもたちを連れていきたいけれど、仮設住宅で暮らしているため金銭的にも無理』という親御さんの声を受けて企画したものです。幸いなことに、AJOSCなどから助成をいただくことができたので実施することができました」と、スタッフの佐藤真実さんは話す。

ライブ終了後のアンケートには600人以上が回答を寄せ、「クオリティの高さに感動した」、「今後も子どもたちに勇気や夢を与えてください」、「龍はテレビヒーローと同じくらいカッコよかった」、「ボクの幼稚園にも来てください」、「元気をもらいました」といった声が多かったという。「震災で多くのものを失いましたが、龍というヒーローから勇気や優しさを受け取った子どもたちが、大人になったときに、それを次の世代の子どもたちにバトンタッチしてほしい。そのために、いま私たちができる最高のものを提供していきたい」と、佐藤さん。子どもたちの心に、龍というヒーローは生き続けるに違いない。